

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000173		
法人名	社会福祉法人 北叡会		
事業所名	グループホームあるて きらら館		
所在地	江別市上江別476番地4		
自己評価作成日	平成31年2月14日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2018.022_kan=true&JigyosyoCd=0191000173-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で安心した生活を送って頂けるよう、入居者様それぞれの生活歴を把握し、一人ひとりの言葉に耳を傾け、気持ちにゆったりと寄り添うケアに努めている。毎日の暮らしの中で入居者様が主体的に取り組める趣味活動や運動の機会の確保、掃除や洗濯、調理手伝いなどの家事も職員と入居者様が一緒に行うことで残存機能の維持と「共に支え合う生活」の実現を目指している。
医療面では協力医療機関との情報交換を密にするのと同時に週に一度の訪問看護により体調不良時や緊急時にも速やかな対応が出来る体制を整えている。
毎月両ユニット共同でミーティング、カンファレンスを実施しており、ケアの見直し、意見交換を行っている。
また、各専門職との連携を行いケース検討を行い、入居者、ご家族が安心できるサービス体制を整えられるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあるて」は、JR高砂駅から徒歩で15分程の自然環境に恵まれた静かな場所に立地している。建物内は清潔感のある広々とした造りで、利用者と一緒に制作したさりげない季節の装飾から家庭的な温もりが感じられる。副施設長は、これまでの経験を活かしながら職員と共に利用者一人ひとりの気持を大切に意思を尊重し、その人らしい日々を過ごすことができるように自立支援介護に力を注いでいる。運営推進会議は、職員の内部研修を基に毎回テーマを設定して専門的な情報を分かりやすく説明しており、参加者の日常生活に活かされている。行政との関係では、副施設長が定期的に市の医療介護連携部会に参加して介護保険課と情報を交換し、普段から協力関係を築いている。職員の育成にも積極的に取り組み、毎月計画的に勉強会を実施すると共に、身体拘束防止委員会を全職員参加の下に開催してグレーゾーンの具体的な事例を挙げながら適切な対応についても学んでいる。職員間で気になる対応や声かけがあれば理念を示しながらお互いに注意し合うなど、日々質の高いケアが行われている。前回の課題にも前向きに取り組み、独自の災害対応マニュアルを新たに作成し、個別の避難誘導方法についても話し合っている。明るい笑顔で利用者により寄り添う職員の姿は、家族の安心感につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域環境において、家庭的な雰囲気の中でゆったりと穏やかな時間を大切にするという理念を掲げ、職員全員が、理念を基に入居者様に接し暮らして頂けるよう努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた文言を含む3項目のケア理念を作成し、居間や職員のネームプレートにも記載している。年1回ミーティングで再確認すると共に、職員間で日々理念を確認して実践できるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議やお祭り、戸外行事、近隣の保育園からの訪問や慰問ボランティア等の協力を頂き、地域の方々との交流を行っている。	法人のお祭りに保育園児が来訪して太鼓を披露したり、ボランティアによるマジックショーを見学している。定期的に民謡ボランティアの訪問もある。江別市のグループホーム交流会に参加して、ゲームなどをして他の利用者と交流する機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践で培ってきた経験を基に認知症や高齢者介護に関する資料を作成し、運営推進会議等でより良い介護方法などを参加者へお伝えする機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況や発生した事故・その後の対策について毎回報告し意見を頂いている。会議の中で意見交換を行うことでサービスの向上に努めている。	全家族に議案を記載した会議案内を送付して、感染症予防や認知症ケアなどをテーマに、職員の内部研修を基に分かりやすく説明している。議事録と資料も家族に送付している。毎回1~2名の家族が参加しているが、固定化しつつある。	メインテーマに沿って会議に参加できない家族の質問や意見などを事前に聞き取り、会議に活かすような取り組みも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様状況を書面にて直接持参しグループホームの状況を理解して頂けるよう、また相談しやすい関係作りを行っている。	副施設長は、入居者情報の書類提出で毎月市役所を訪問したり、江別市の医療介護連携部会の委員として介護保険課と定期的に情報交換している。普段から連携することで協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加を行い学んだ事を伝達研修を通し職員への周知を行っている。職員への、法人内での研修の実施、ミーティングの際に身体拘束の定義等について確認を行なっている。また、現場でも身体拘束に繋がるケアがないか都度話し合いを行っている。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、普段から意識できるように「禁止の対象となる具体的な行為」11項目を職員室やユニット内に掲示している。身体拘束・虐待防止委員会をミーティング内で開催し、行動を抑制する言葉かけやグレーゾーンの具体的な事例を挙げて適切な対応について学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、法人内での研修の実施、ミーティングにおいて接遇や不適切ケアについて振り返りの時間を設けている。また日常の中でも職員間での不適切ケアについて常に防止に努めている。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加。制度の理解を深め支援できるよう行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は相談員も同席し、ご家族様と十分に話す時間を設けるよう心掛け、不安や疑問を解消出来るよう努めている。また、入居後は出来るだけ細やかに入居者様の状況をお伝えし、面会の少ないご家族にもお手紙にて毎月状況報告し相談しやすい関係構築に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やアンケートの実施、ご意見・ご要望に関する書式の配布をしている。アンケートの結果はご家族様に提示している。入居者、ご家族から寄せられた意見に対しては速やかに臨時のミーティングを開催し、自部署のみならず法人として対応を検討する体制を整えている。	法人アンケートを毎年実地している。家族の来訪時に近況報告をして、気になることなどを聞き取っている。家族の些細な意見は口頭で伝えたり、連絡ノートに記入しているが、今後は継続的に情報共有ができるように、些細な意見や職員の気付きを個別に記録に残したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員との密なコミュニケーションに努めるとともにミーティングにて職員との意見交換の場を設け、意見、提案を聴き、検討する時間を設けている。	毎月の合同ミーティングで利用者全員の状況を把握し、全職員で適切なケアについて話し合っている。職員の提案で、業務内の作業分担を変更することもある。新人職員の意見や提案を聞き入れ、適切な対応を全職員で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を実施し、職員個々の意見を聴く機会を設け不安やストレスを解消出来るような環境作りに努めている。また、努力、実績は適格に評価を行い、本人の勤務意欲向上を図っている。勤務方法についても個人の希望や能力を考慮し負担とならないよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験やスキルを基に、より一層のスキルアップを目標に外部研修への参加を促し、法人内での研修報告において学びを深める機会を設けている。また、内部研修を実施し、多くの職員に参加して頂けるよう積極的に呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームとの交流会を通じて意見・情報交換を行える機会を設けている。また、関連のグループホーム管理者が集まり情報の交換を行っている。関連グループホーム合同での行事活動を行うことで入居者様に質の高いサービスを提供する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係機関(居宅)や他施設の情報を確認後、ご本人と可能な限り相談員を交え時間をかけ面談し、些細な不安等を理解し解決するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族、ご本人には出来るだけ入居前に当施設を見学して頂き十分な理解が得られた後に入居申し込み・入居へ繋げている。また、ご家族の利用に対する思いをお話して頂けるよう、面談等にて働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員を交え、ご本人、ご家族と面談などを通し、現状、問題点、今後の方向性などを十分に検討し、より良い暮らしができるよう、他のサービスの利用も考慮しながらご本人の尊厳を尊重した生活が可能となる対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で互いに協力を行いながら、入居者様ご本人らしい生活を送って頂けるよう心がけている。また、入居者様ご本人のやりたいこと・できることを日々の生活で聞き取ったり確認をしながら実施して頂けるよう主体性、自己決定を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者様の状況をお伝えするだけでなく、電話連絡や手紙等のツールも利用しながら情報共有に努め、日々のご様子をお伝えする。意向を確認した上でケアの方向性を定めている。また出来る限りご家族にもケアに参加して頂けるよう面会や外出・外泊が入居者様にとってどのような良い効果があるかお伝えしご協力頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様個々の生活歴や家族関係、友人関係を考慮し、楽しく過ごされていた時代や過去に暮らしていた地域について、明るく振り返りながら接するよう努めている。また外出や外泊をご家族に行って頂けるようお伝えし、ご協力頂いている。ご友人が面会に来られた時など、お二人でお話しが出来る環境を提供している。	近所に住んでいた方やサークル活動の友人などが来訪する利用者もいる。職員は、ドライブで利用者の自宅付近を通った時に昔の様子を尋ねたり思い出話をしている。家族と一緒に買い物や外食、親族の誕生日祝いに出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや活動において、職員が介入しながら入居者様同士が関わり合えるよう努めている。また、日常生活でも入居者様同士が友好的関係を築けるよう、居場所の工夫等を行い臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居に至った方については、不安や心配事があった際はいつでも連絡して頂けるように声をかけ連絡体制を整えている。また、相談員を交え医療機関等との連携を図りながら、今後のサービス利用についての相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートからの生活歴や日頃から入居者様に寄り添い、何気ない会話などからご本人様の意向を聞き出せるよう努め、職員間で情報共有している。困難な方に関してはご家族から情報提供を頂き、ケアに活かせるよう努めている。	会話やちょっとした動き、利用者同士の会話などから本人の思いや意向を把握している。利用開始時に趣味などの情報を得ているが、定期的に見直しをしているフェイスシートには記載していない。	趣味や嗜好などの情報をフェイスシートの備考欄などに記載し、変化に応じて追記も行うよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、ご家族様や入居前の関係各所の担当者様に協力して頂き、差し支えの無い範囲で過去の生活歴を口頭及び書面で聞き取るようにしている。またご本人様との会話の中でこれまでの生活歴や生活環境を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングや申し送りノートにて一人ひとりに合った活動内容の検討や受診経過の把握に努めている。また日々のケアの中での職員の気づきを大切にし入居者様のできることやできそうなことに注目し実現できるようケアに反映している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から入居者様の意向や希望を引き出せるよう努めている。ご家族様とは必要時ゆっくりと面談する機会を設け、要望や入居者様に対する思いを傾聴している。また専門職を交え医療データなども参考にケース検討を実施し、ご本人様にとってより良い介護計画を作成できるよう努め、実施している。	利用者担当職員と計画作成担当者が実施した評価を基に、3か月ごとに全職員で検討して新たな介護計画を作成している。記録の書き方の勉強会を実施して、介護計画の見直しに活かせるような「生活記録」の記入方法について学びを進めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にケアプランの実施状況や様子を記入し、情報共有している。ケアプランの変更が必要な際は担当者が中心となりアセスメントを行い、介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わる入居者様・ご家族様の状況や心身の変化を柔軟に受け止め、対応を検討し、その時のニーズに応じたケアを実践出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、慰問の受け入れ等を積極的に行い、入居者様と共に楽しんでもらえるよう、施設での行事案内等も地域へお声掛けさせて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を継続できるよう努めている。状態に応じてご家族が受診に同行されることもある。月に一度協力医療機関への定期検診、週一度の訪問看護の実施により情報共有も密に行い、突発的な受診もスムーズに行えるよう体制を整えている。	協力医療機関以外の専門医を家族と受診する時は、状況に応じてメモ書きで健康状態を伝えることもある。定期受診以外は「臨時受診表」で事前に主治医に状況を伝え、適切な医療支援につなげている。受診状況は個別に記載している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員、看護職員による日々の入居者様の心身の状態を確認し、変化等があれば訪問看護へ情報を伝え相談している。頂いた助言を基に受診や、適切な看護処置等へと繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携を取り、入居者様の定期的な健康管理、情報共有を行っている。また、医師からご家族への病状の説明の際は同席させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には入居の事前説明の際に重度化や終末期に関する対応指針についての説明を行っており、理解して頂いている。体調や状態に変化があった際には医療機関と連携し対応を行っている。終末期に関しては、職員の学習会も行い、ご本人様・ご家族様の希望に沿った支援を行えるよう努めている。	「重度化に関する対応指針」に沿って、利用開始時に事業所としての方針や可能な対応について説明している。主治医の判断の下、家族の意向に沿って看取りも実施している。看取りに関する法人研修を受講し、今年度も1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の連絡体制を整え、職員へ周知している。また、学習会を行い、全職員が急変時の対応を行えるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は1回、夜間想定避難訓練を行っており、避難経路や連絡体制、災害時の対応方法等を全職員で確認している。年度内に日中、地震想定訓練を行う予定。	日中の地震を想定した避難訓練を、消防署と地域住民の協力の下に3月に実施する予定である。個別の避難誘導方法や事業所独自の災害対応マニュアルを新たに作成している。冬季の災害を想定した備蓄品も整備を進めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への言葉遣いやプライバシーの配慮について、職員間で注意し合えるよう努めている。また、ミーティングや法人内研修で接遇について考える機会を設け入居者様の人格を尊重する対応を行っている。	新人研修や法人の接遇研修の他、認知症ケアと自立支援、身体拘束や虐待防止などミーティング内で計画的に研修を実施している。職員全員で話し合い、理解を深めてケアで実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日頃から入居者様の思いを引き出せるよう傾聴の姿勢を大事にして取り組んでいる。小さなことでも自己決定ができるように支援をするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にはならないように、その人らしいその日の過ごし方を実現するため、入居者様に寄り添い傾聴したり思いを共有することで日々の時間が柔軟に使えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が自分らしさを表現できるように配慮している。ご自身で困難な方は、ご家族からの生活歴などを参考にお手伝いをさせて頂いている。また、身体・衣類や下着の清潔保持に努めている。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の「やりたい」という気持ちを大切に、職員と一緒に後片付けなどをして頂くこともある。誕生会や、行事の際には、事前に入居者様の好きな物をお聞きし、提供することで食事を楽しんで頂けるよう努めている。	毎月の行事に合わせて、食べる楽しみを計画している。餅つきでは利用者が餅を丸め、桜餅やおはぎは手作りして好評である。夏はもぎたてのトウモロコシの皮をむくなど、利用者ができることを一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成したメニューに沿って調理し栄養バランスは取れている。また、職員が入居者様の嗜好を確認したり、検食を行う事で満足度の高い食事を提供出来るよう努めている。水分は個人のタイミングや嗜好に合わせた提供を心掛け、記録しながら管理し十分な水分量を提供し摂取もできている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、確認と必要時は介助・仕上げ磨き等を行っている。口腔機能を維持するため食前の嚥下体操やマッサージも行っている。毎晩義歯洗浄後に義歯洗浄剤を使用し消毒を行っている。必要時、訪問歯科の診察を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来る限りおむつではなくトイレでの排泄が出来るよう支援している。排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し自立に向けた取り組みをしている。	声かけや排泄動作の見守り介助で、ほぼ全員が日中はトイレでの排泄を継続している。職員は利用者ができる排泄動作を見守り、自分でできると思うことを大事にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と適度な運動を心掛け、出来る限り自然な排便が出来るよう工夫している。排泄チェック表で排便状況の管理を行い、必要時は医療機関や訪問看護へ相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やその日の体調に配慮しながら週に2回の入浴を実施している。個々のADLや疾患を考慮した入浴方法の検討、実施をしている。	入浴習慣や身体状況に合わせた補助具を使用して安全な入浴を支援している。職員は利用者との会話から日頃の思いを把握したり、入浴が気分転換となるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操や歩行訓練などの身体を動かす活動に参加して頂くことで安眠して頂けるよう努めている。一人ひとりの生活習慣に合わせた就寝準備を行っている。また、個々の体力を考慮し日中でも休息することが出来る支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルに綴り、全職員が確認出来るよう周知している。体調に変化があった際は医療機関へ速やかに報告相談し、次の対応が出来る体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの希望を考慮し、役割を持った生活ができるよう努めている。職員は入居者様の生活歴や性格・残存能力等も配慮しながら家事、趣味活動、運動などの活動に参加して頂けるよう支援している。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間は戸外への散歩が難しくなるが、施設内を散歩するなど気分転換の時間を作れるよう工夫している。雪のない時期は外出行事や買い物、戸外への散歩等、入居者様やご家族様の希望に沿った支援が出来るよう努めている。また、ご家族様と一緒に外出する機会を設けて頂いている。	入居者の高齢化や体調を考慮し、少人数の外出支援に取り組んでいる。職員は日常の関わりから外出の希望を把握し、2~3名ずつ桜の名所や同法人各施設のお祭、住みなれた自宅周辺をドライブしてアイスを楽しむ外出支援などが好評である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については入居者様の状態に合わせた管理方法としているが、認知症があり自己管理が困難な状況となっており施設管理としている。入居者様から買い物等の希望があった場合は、家族様の意向を確認しながら買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が希望する場合は、ご家族様に確認を行った上で電話や手紙でやりとりが出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が自由に過ごせるよう、ゆったりとした間取りで過ごせる環境作りに努めている。共有スペースや廊下には入居者と共に制作した季節の飾り付けを行っている。トイレや居間等は小まめな清掃を心掛け、常に清潔を保てるようにしている。職員は自らが騒音とならないよう声の大きさ等に注意すると共に、廊下の照明や温度設定にも注意し環境整備を行っている。	大きな窓があるリビングでは、大型ソファでくつろいだり食卓テーブルで作業を行うなど居心地よい場所となっている。共用スペースは車いすで利用できる洗面台やトイレが設置され、混雑せずに利用者のペースで行っている。利用者制作の季節感ある作品や行事の写真を多く飾り好評である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に過ごして頂けるよう入居者様やご家族様に日頃からお伝えしている。落ち着いた場所で入居者様同士、会話を弾ませている姿もよく見られる。部屋で一人で過ごしたい時には無理なお誘いはせず、安全面に配慮しながら自由に過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家具や身の回りの使い慣れた物をご持参頂くようお願いしている。ご家族様やペットの写真や、ご自分で作られた作品等を飾り、入居者様が安心出来る空間となるよう配慮している。	使い慣れたベッドや寝具、家族写真や思い出の物を飾り落ち着いた部屋づくりを支援している。生活習慣を継続するために、衣類の整理が分かりやすくなるようにラベルを貼るなど利用者や相談して整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせ、共有スペースの環境整備や居室の家具配置が安全であるかミーティングやカンファレンス時に検討している。入居者様やご家族様にも意見を頂いたり相談出来る体制を整えている。		

グループホーム あるて
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000173		
法人名	社会福祉法人 北叡会		
事業所名	グループホームあるて あかり館		
所在地	江別市上江別476番地4		
自己評価作成日	平成31年2月14日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で安心した生活を送って頂けるよう、入居者様それぞれの生活歴を把握し、一人ひとりの言葉に耳を傾け、気持ちにゆったりと寄り添うケアに努めている。毎日の暮らしの中で入居者様が主体的に取り組める趣味活動や運動の機会の確保、掃除や洗濯、調理手伝いなどの家事も職員と入居者様が一緒に行うことで残存機能の維持と「共に支え合う生活」の実現を目指している。
医療面では協力医療機関との情報交換を密にするのと同時に週に一度の訪問看護により体調不良時や緊急時にも速やかな対応が出来る体制を整えている。
毎月両ユニット共同でミーティング、カンファレンスを実施しており、ケアの見直し、意見交換を行っている。
また、各専門職との連携を行いケース検討を行い、入居者、ご家族が安心できるサービス体制を整えられるよう努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0191000173-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域環境において、家庭的な雰囲気の中でゆったりと穏やかな時間を大切にするという理念を掲げ、職員全員が、理念を基に入居者様に接し暮らして頂けるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議やお祭り、戸外行事、近隣の保育園からの訪問や慰問ボランティア等の協力を頂き、地域の方々との交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践で培ってきた経験を基に認知症や高齢者介護に関する資料を作成し、運営推進会議等でより良い介護方法などを参加者へお伝えする機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況や発生した事故・その後の対策について毎回報告し意見を頂いている。会議の中で意見交換を行うことでサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者様状況を書面にて直接持参しグループホームの状況を理解して頂けるよう、また相談しやすい関係作りを行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加を行い学んだ事を伝達研修を通し職員への周知を行っている。職員への、法人内での研修の実施、ミーティングの際に身体拘束の定義等について確認を行なっている。また、現場でも身体拘束に繋がるケアがないか都度話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、法人内での研修の実施、ミーティングにおいて接遇や不適切ケアについて振り返りの時間を設けている。また日常の中でも職員間での不適切ケアについて常に防止に努めている。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加。制度の理解を深め支援できるよう行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は相談員も同席し、ご家族様と十分に話す時間を設けるよう心掛け、不安や疑問を解消出来るよう努めている。また、入居後は出来るだけ細やかに入居者様の状況をお伝えし、面会の少ないご家族にもお手紙にて毎月状況報告し相談しやすい関係構築に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やアンケートの実施、ご意見・ご要望に関する書式の配布をしている。アンケートの結果はご家族様に提示している。入居者、ご家族から寄せられた意見に対しては速やかに臨時のミーティングを開催し、自部署のみならず法人として対応を検討する体制を整えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員との密なコミュニケーションに努めるとともにミーティングにて職員との意見交換の場を設け、意見、提案を聴き、検討する時間を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を実施し、職員個々の意見を聴く機会を設け不安やストレスを解消出来るような環境作りに努めている。また、努力、実績は適格に評価を行い、本人の勤務意欲向上を図っている。勤務方法についても個人の希望や能力を考慮し負担とならないよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験やスキルを基に、より一層のスキルアップを目標に外部研修への参加を促し、法人内での研修報告において学びを深める機会を設けている。また、内部研修を実施し、多くの職員に参加して頂けるよう積極的に呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームとの交流会を通じて意見・情報交換を行える機会を設けている。また、関連のグループホーム管理者が集まり情報の交換を行っている。関連グループホーム合同での行事活動を行うことで入居者様に質の高いサービスを提供する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係機関(居宅)や他施設の情報を確認後、ご本人と可能な限り相談員を交え時間をかけ面談し、些細な不安等を理解し解決するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族、ご本人には出来るだけ入居前に当施設を見学して頂き十分な理解が得られた後に入居申し込み・入居へ繋げている。また、ご家族の利用に対する思いをお話して頂けるよう、面談等にて働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員を交え、ご本人、ご家族と面談などを通し、現状、問題点、今後の方向性などを十分に検討し、より良い暮らしができるよう、他のサービスの利用も考慮しながらご本人の尊厳を尊重した生活が可能となる対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で互いに協力を行いながら、入居者様ご本人らしい生活を送って頂けるよう心がけている。また、入居者様ご本人のやりたいこと・できることを日々の生活で聞き取ったり確認をしながら実施して頂けるよう主体性、自己決定を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者様の状況をお伝えするだけでなく、電話連絡や手紙等のツールも利用しながら情報共有に努め、日々のご様子をお伝えする。意向を確認した上でケアの方向性を定めている。また出来る限りご家族にもケアに参加して頂けるよう面会や外出・外泊が入居者様にとってどのような良い効果があるかお伝えしご協力頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様個々の生活歴や家族関係、友人関係を考慮し、楽しく過ごされていた時代や過去に暮らしていた地域について、明るく振り返りながら接するよう努めている。また外出や外泊をご家族に行ってもらえるようお伝えし、ご協力頂いている。ご友人が面会に来られた時など、お二人でお話しが出来る環境を提供している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや活動において、職員が介入しながら入居者様同士が関わり合えるよう努めている。また、日常生活でも入居者様同士が友好的関係を築けるよう、居場所の工夫等を行い臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居に至った方については、不安や心配事があった際はいつでも連絡して頂けるように声をかけ連絡体制を整えている。また、相談員を交え医療機関等との連携を図りながら、今後のサービス利用についての相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェースシートからの生活歴や日頃から入居者様に寄り添い、何気ない会話などからご本人様の意向を聞き出せるよう努め、職員間で情報共有している。困難な方に関してはご家族から情報提供を頂き、ケアに活かせるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、ご家族様や入居前の関係各所の担当者様に協力して頂き、差し支えの無い範囲で過去の生活歴を口頭及び書面で聞き取るようにしている。またご本人様との会話の中でこれまでの生活歴や生活環境を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングや申し送りノートにて一人ひとりに合った活動内容の検討や受診経過の把握に努めている。また日々のケアの中での職員の気づきを大切にし入居者様のできることやできそうなことに注目し実現できるようケアに反映している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から入居者様の意向や希望を引き出せるよう努めている。ご家族様とは必要時ゆくりと面談する機会を設け、要望や入居者様に対する思いを傾聴している。また専門職を交え医療データなども参考にケース検討を実施し、ご本人様にとってより良い介護計画を作成できるよう努め、実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にケアプランの実施状況や様子を記入し、情報共有している。ケアプランの変更が必要な際は担当者が中心となりアセスメントを行い、介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わる入居者様・ご家族様の状況や心身の変化を柔軟に受け止め、対応を検討し、その時のニーズに応じたケアを実践出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、慰問の受け入れ等を積極的に行い、入居者様と共に楽しんでもらえるよう、施設での行事案内等も地域へお声掛けさせて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を継続できるよう努めている。状態に応じてご家族が受診に同行されることもある。月に一度協力医療機関への定期検診、週一度の訪問看護の実施により情報共有も密に行い、突発的な受診もスムーズに行えるよう体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員、看護職員による日々の入居者様の心身の状態を確認し、変化等があれば訪問看護へ情報を伝え相談している。頂いた助言を基に受診や、適切な看護処置等へと繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携を取り、入居者様の定期的な健康管理、情報共有を行っている。また、医師からご家族への病状の説明の際は同席させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には入居の事前説明の際に重度化や終末期に関する対応指針についての説明を行っており、理解して頂いている。体調や状態に変化があった際には医療機関と連携し対応を行っている。終末期に関しては、職員の学習会も行い、ご本人様・ご家族様の希望に沿った支援を行えるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の連絡体制を整え、職員へ周知している。また、学習会を行い、全職員が急変時の対応を行えるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は1回、夜間想定避難訓練を行っており、避難経路や連絡体制、災害時の対応方法等を全職員で確認している。年度内に日中、地震想定訓練を行う予定。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への言葉遣いやプライバシーの配慮について、職員間で注意し合えるよう努めている。また、ミーティングや法人内研修で接遇について考える機会を設け入居者様の人格を尊重する対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日頃から入居者様の思いを引き出せるよう傾聴の姿勢を大事にして取り組んでいる。小さなことでも自己決定ができるように支援をするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にはならないように、その人らしいその日の過ごし方を実現するため、入居者様に寄り添い傾聴したり思いを共有することで日々の時間が柔軟に使えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が自分らしさを表現できるように配慮している。ご自身で困難な方は、ご家族からの生活歴などを参考にお手伝いをさせて頂いている。また、身体・衣類や下着の清潔保持に努めている。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の「やりたい」という気持ちを大切に、職員と一緒に後片付けなどをして頂くこともある。誕生会や、行事の際には、事前に入居者様の好きな物をお聞きし、提供することで食事を楽しんで頂けるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成したメニューに沿って調理し栄養バランスは取れている。また、職員が入居者様の嗜好を確認したり、検食を行う事で満足度の高い食事を提供出来るよう努めている。水分は個人のタイミングや嗜好に合わせた提供を心掛け、記録しながら管理し十分な水分量を提供し摂取もできている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、確認と必要時は介助・仕上げ磨き等を行っている。口腔機能を維持するため食前の嚥下体操やマッサージも行っている。毎晩義歯洗浄後に義歯洗浄剤を使用し消毒を行っている。必要時、訪問歯科の診察を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来る限りおむつではなくトイレでの排泄が出来るよう支援している。排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し自立に向けた取り組みをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と適度な運動を心掛け、出来る限り自然な排便が出来るよう工夫している。排泄チェック表で排便状況の管理を行い、必要時は医療機関や訪問看護へ相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やその日の体調に配慮しながら週に2回の入浴を実施している。個々のADLや疾患を考慮した入浴方法の検討、実施をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操や歩行訓練などの身体を動かす活動に参加して頂くことで安眠して頂けるよう努めている。一人ひとりの生活習慣に合わせた就寝準備を行っている。また、個々の体力を考慮し日中でも休息することが出来る支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルに綴り、全職員が確認出来るよう周知している。体調に変化があった際は医療機関へ速やかに報告相談し、次の対応が出来る体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの希望を考慮し、役割を持った生活ができるよう努めている。職員は入居者様の生活歴や性格・残存能力等も配慮しながら家事、趣味活動、運動などの活動に参加して頂けるよう支援している。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間は戸外への散歩が難しくなるが、施設内を散歩するなど気分転換の時間を作れるよう工夫している。雪のない時期は外出行事や買い物、戸外への散歩等、入居者様やご家族様の希望に沿った支援が出来るよう努めている。また、ご家族様と一緒に外出する機会を設けて頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については入居者様の状態に合わせた管理方法としているが、認知症があり自己管理が困難な状況となっており施設管理としている。入居者様から買い物等の希望があった場合は、家族様の意向を確認しながら買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が希望する場合は、ご家族様に確認を行った上で電話や手紙でやりとりが出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が自由に過ごせるよう、ゆったりとした間取りで過ごせる環境作りに努めている。共有スペースや廊下には入居者と共に制作した季節の飾り付けを行っている。トイレや居間等は小まめな清掃を心掛け、常に清潔を保てるようにしている。職員は自らが騒音とならないよう声の大きさ等に注意すると共に、廊下の照明や温度設定にも注意し環境整備を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に過ごして頂けるよう入居者様やご家族様に日頃からお伝えしている。落ち着いた場所で入居者様同士、会話を弾ませている姿もよく見られる。部屋で一人で過ごしたい時には無理なお誘いはせず、安全面に配慮しながら自由に過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家具や身の回りの使い慣れた物をご持参頂くようお願いしている。ご家族様やペットの写真や、ご自分で作られた作品等を飾り、入居者様が安心出来る空間となるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせ、共有スペースの環境整備や居室の家具配置が安全であるかミーティングやカンファレンス時に検討している。入居者様やご家族様にも意見を頂いたり相談出来る体制を整えている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あるて

作成日：平成 31年 3月 20日

市町村受理日：平成 31年 3月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議に参加できない家族の質問や意見などの聞き取りが不十分。	メインテーマに沿って会議に参加できない家族の質問や意見などを事前に聞き取り会議に活かすような取り組みを行う。	参加確認票を郵送する際に、事前に議案内容をお知らせしご意見やご質問がないか確認できるよう、参加表と一緒にご意見やご質問が記載できる用紙に変更する。	12ヶ月
2	23	フェイスシートの趣味や嗜好の情報が不十分。	日々の生活での訴えや行動について職員で共有する。	フェイスシートに趣味・嗜好の欄を新たに作成し記載する。趣味・嗜好が不明であったり、表現できない入居者様については日々の行動や言葉を記載した用紙を作成しフェイスシートに添付する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。